

教育
コンサルタント
の

自画像

第47回

苦難をとおして歓喜へ ビクター・フランクルに学ぶ

人財開発コンサルタント・鍼灸師
太田 哲二



おおた てつじ

九州大学卒業後、バイエル薬品、ファイザー、万有製薬などのグローバル製薬企業で営業、マーケティング、人財開発業務に携わる。グローバルで実施している管理職研修を日本向けにローカライズしたり、パフォーマンスコンサルタントとして部門のニーズにあった社内研修体系の構築や社内講師育成に取り組む。現在、マルタス エグゼクティブ コンサルティング株式会社バイスプレジデント 研修事業部長 立教大学経営学部兼任講師。

起こっていることはすべて正しい



私に大きな影響を与えてくれた本に、第二次世界大戦時に、ナチのアウシュビッツ捕虜収容所に捕えられた心理学者ビクター・フランクルの著書『夜と霧』があります。学生時代、人生に悩んでいた時に先輩からこの本を紹介されました。「たとえ、あなたが人生に何も期待していなくても、人生はあなたに期待している」という発想の転換や「それでも人生にYesと言う」、「今を生ききる」フランクルの肯定的な考え方に感動したのを覚えています。それから二十数年が経ち、研修という仕事を通してまた彼と出会うことになったのです。

私は外資系の製薬会社を4社経験しました。転職は2回です。なぜかと言いますと、最初に転職した先が、別の会社を買収されてしまったからです。当時、私は営業部門研修の責任者でしたが、新しい会社では担当部長として、それまでの比較的穏やかな環境から即成果が求められるアグレッシブな組織の中で仕事をしていくことになりました。いろいろな刺激があります。外資系なので表面的にはダイバーシティの大切さを掲げてはいますが、周囲からは無理難題を言われます。「いつ辞表を出そうか」と思ったこともありました。今振り返ると、その時の修羅場体験が、現在の仕事にずいぶん役立っています。最近「起こっていることはすべて正しい」と経済評論家の勝間和代さんも述べているように、「降りかかってくるどんな体験やプロセスも、必要、必然、ベストであってすべてが学びとして深いところで自分が選んでいるのだ」と理解できるようになりました。

態度価値／フランクルに学ぶ



人財開発部門ではさまざまなプログラムの企画開発や社内講師の仕事をしてきましたが、その中でも一番自分に影響を与えてくれたのが「7つの習慣」の社内講師です。企業合併という大きな変化の波の中でモチベーションを落とさず前向きに進むことができたのは、この仕事のお陰だと思っています。

そしてこの「7つの習慣」の研修の中で、ビクター・フランクルと“再会”しました。彼は家族をガス室で殺され、さらに麻酔もかけられずに断種の手術を受けるといふ耐え難い刺激に出会います。自由を完全に拘束され、

体にメスを入れられようとしている瞬間、彼は「憎むという選択と憎まないという選択に関してはナチでもどうすることもできない。完全に自分の手の中にある」ということに気づきました。それを彼は「残された最後の大いなる自由」と述べています。これを「態度価値」と言いますが、人は「どんな極限におかれようとも、最終的に自分の反応や態度を自分で選ぶ自由を有している」という自己責任の習慣を学ばせてもらいました。

体験をストーリーテリングとして語る

『7つの習慣』の著者コビー博士の言葉に「他人の行動が私たちが傷つけているのではない。他人の行動に対して自分で選択した反応が自分を傷つけているのである」とあります。最初にこの言葉を聞いたとき、私にはその意味がわかりませんでした。あるとき同僚からひどい言葉を投げかけられて、非常に悔しい思いをしました。悔しさをそのまま放っておくとストレスに潰されてしまいそうだったので、学生時代の親友を飲み場に誘い、話を聞いてもらいました。この親友は、何でも思ったことを率直に言ってくれるありがたい存在です。じっと私の話を聞いていた彼は「お前、今すごく悪い顔しているな。話を聞くと悪いのはお前の同僚だよな。お前の同僚が悪い顔になるのなら分かるけど、お前が悪い顔になるのは割に合わないんじゃないか」と言いました。

話を聞いて「ああ、反応的になっていたのは自分だったのだ。自分で勝手に傷ついていたのだ」と、コビー博士の言葉が腹に落ちました。彼はまた、こう言いました。

「あいつからあんなこと言われて昼飯ものどに通らないと言っても、そいつはしっかり食っている。あんなひどいことを言われて夜も眠れないと言っても、そいつはしっかり寝ている。損しているのはお前じゃないか」

なるほどと思いました。研修では参加者の腹に落とすのにストーリーテリングが重要ですが、このときの話を今、モチベーション研修に使っています。

東洋医学的な問題解決アプローチ

私は西洋医学をベースとした製薬会社で働いてきましたので、西洋医学の価値は十分認識しています。しかし、部分最適にならずに全体を診る「ホリスティック医学」に興味を持ち、お医者様が作る漢方の勉強会に参加し

ました。東洋医学では、病が深く進行した状況では、漢方薬だけで治療することは困難で「鍼灸」という物理療法が必要となります。私は尊敬するドクターからの勧めもあり、夜間の鍼灸学校に通い、鍼灸師の資格を取りました。その頃は自分のクリニックを持ちたいと、いろいろな治療法を学びました。

今は人財開発の仕事のほうがおもしろくなり、クリニックの開業はもっと先になりそうですが、この全体を診るという考え方は、研修の世界でも「強みを活かして部分最適にならずに全体を見る」というポジティブ・アプローチ型の問題解決に、大いに役立っています。

夢は志を持った若い人びとの育成

今、大きな変革の時代です。私は幕末、数々の変革のファシリテーターを排出した吉田松陰が大好きです。彼と比較するのはおこがましいのですが、最近「若い人を育成したい」という想いが募り、現在、立教大学の経営学部で教鞭をとっています。また、志のある若い人たちを対象に、フランクから学んだ感動を伝えるべく、ワークショップを実施しています。先日も家内が通っている教会の青年会で話をし、若い人たちの目の輝きが増したことに、私自身のエネルギーの高まりを感じました。これが私のライフワークになるのかなと思っています。

私はかつて、オーケストラに入っていたことがあります。ベートーベンの第9番交響曲「苦難を通して歓喜へ」が大好きです。問題解決型のファシリテーションでも、より良い成果を出すためには、苦難や対立、修羅場の体験が絶対に必要です。今後も「人生には修羅場体験を通さないと見ることができない世界がある」、「人生における苦難や思い通りにならないことこそが、私たちの成長や進化に必要なことである」ということを、さまざまな研修やワークショップを通じて伝えたいと思っています。

●専門分野・指導先

専門分野：EQの自己理解、ファシリテーション、セルフ・リーダシップ、メンタルヘルス、クリティカルシンキング、ビジネスコーチング、プレゼンテーション、ネゴシエーション、チェンジマネジメント、勇気ある対話など

指導先：大手グローバル製薬メーカー、MR派遣会社、建設業、研修会社、法務省、財務省、国土交通省、名古屋市など

●連絡先

TEL：080-1152-1426 FAX：03-5541-9082

<http://www.multus.co.jp> e-mail：ohta0326@jcom.home.ne.jp